第４学年　ESD（社会科）学習指導案

日　時：平成２８年１１月１８日（金）４校時
場　所：第４学年教室　　授業者：吉田　貴子

１　単元名　「わたしたちの県　　①　県の広がり」～調べよう、気づこう、福島の特色と環境～

２　児童の実態

本学級の児童は、社会科の学習に意欲的な児童が多く、身近な社会的事象についての気づきが積極的にできる。しかし、興味・関心を持ったことをどう調べるのか、また、自分の生活や他の事象との関係はどうなっているのかといった学習の深化・広がりについては、まだ見通しを持てずにいる児童もいる。３年時の社会科の学習においては、興味・関心を高めることを重視し、「知りたいこと」を持ち調べていく授業を行ってきた。４年時は、「疑問点に対しての予想」を立て、調べていく形式で授業を進めている。課題発見から調べ学習の進め方、記録・まとめの方法など、個人差が大きいが、ペアや班での学習や伝え合う活動を通して、力を高められるよう取り組んでいるところである。

３　ESD の視点に立った学習指導について

⑴　教材について

本単元では、自分たちの県の物理的位置、県全体の地形や主な産業、交通網の様子や主な都市の位置などに興味・関心を持ちながら、自分たちの住む県の特色を考えていくことをねらいとしている。地図帳や教科書の図から調べたことを白地図に表したり、地図や収集した資料から調べたことをまとめたりする作業的な学習を通して、自分たちの住む県の特色やよさについて具体的に考えることができる単元である。

⑵　持続可能な社会づくりとの関連

身近な地域や市から視野を広げた学習の第一段階が、本単元「わたしたちの県」である。高学年で学ぶ日本および世界へ目を向けるためにも重要な意味を持つこの学習では、まず、課題を見出す力を育てたい。そのために、児童の多様な疑問や感想から、課題設定につなげる過程を重視していく。人を取り巻く環境として、自分たちの住む県の自然・産業・経済等の在り方に関心を持ち、それらが深くかかわりあって存在することの意義や難しさなどを多面的に考えられるよう学習を進めていきたい。これは、構成概念の「Ⅰ多様性」「Ⅱ相互性」にあたる。さらに、見出した課題を解決するために必要な態度を身に付けることをめざしていく。資料を活用し、人々が互いに連携・協力し生活していくことの大切さに気づかせていきたい。構成概念「Ⅴ連携性」と深く関連するものである。

これらの関連を考慮し学習を進める中で、環境について、今後どんな視点を持つことや生き方が必要になるのかといった長期的・将来的な見方も育てていきたいと考える。

⑶　本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

県の特色について、既習の内容や自分の知識と関連付けて考えたり、情報を選択しながら調べたりして、自分なりにまとめようとする力

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

自分の考えを持ち、それを表現する力。友達の意見を聞いたり交流したりし、よりよい考えを生み出そうとする態度

＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞

自分たちの県の自然や特産物と、それを支える人々の生活に関心を持ち、自分の地域や生活を大切にしようとする態度

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

①　調べる項目を明確にしたうえで、見通しを持って資料や文献にあたるようにし、課題解決に向けて焦点化した調べ学習が進められるようにする。

②　個別の学習に入る前に、既習の内容や知識との関連に気づけるよう、全体での話し合いを設定し、見通しにつなげられるようにする。

③　土地利用の工夫、産業の特色、交通すべてにかかわる人々の工夫や思いに気づき、自分の言葉で表現する場を設定し、より具体的に自分の地域を大切にしようという心情につなげる。

4　単元の目標

＜関心・意欲・態度＞

・　自分たちの住む県の様子に関心を持ち、名称や位置、地形や産業、交通網などについて意欲的に調べ、その特色を考えようとしている。

＜思考・判断・表現＞

・　県の様子について、既習の知識との関連や、他県との関連などから特色を考え、適切に表現している。

＜観察・資料活用の技能＞

・　何を活用したらよいかを考え、必要な情報を選択・収集し、県の様子について読み取っている。

・　調べたことをよりわかりやすく表す方法を考え、地図や作品にまとめている。

＜知識・理解＞

・　県の物理的位置、地形や主な産業、交通網の様子や主な都市の位置を理解している。

・　自分たちの県の特色とそれを支える人々について理解している。

5　指導計画と評価規準（総時数　8時間）

時	学　習　活　動	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	知識・理解
1	自分たちの住む福島県について話し合い、学習課題を作る。	県の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。	県の様子について、課題や自分なりの予想を考えている。		
2	福島県の地形とその特色について調べる。			地図や資料を活用して必要な情報を集め、県全体の地形をまとめている。	
3	地形によって、土地の使われ方がどうちがうのか、予想を立てて調べる。		県の土地利用の特色について、既習の内容と関連付けて考え、表現している。	資料やインターネットを活用し、県の地形と土地の使われ方をまとめている。	
4	福島県には、どんな市や町があるのか、その位置と特色を調べる。				県内における自分たちの市や、県内の主な都市の位置を理解している。
5	福島県の市や町と産業について調べる。	各自の学習課題にそって、県の主な産業に関心をもち、調べようとしている。		県内の主な産業とその場所について情報を集め、地図に適切に表している。	
6本時・7	県内の交通の広がりとその理由について調べる。		交通の広がりと地域の特色について既習の内容と関連付けて考え、表現している。	必要な資料や情報を選択し、交通の広がりについてまとめている。	
8	福島県の特色について地図にまとめる。			よりわかりやすい方法を考え、調べたことを地図に表している。	県の地形や土地利用、交通、産業について、人々の生活と関連付けて理解している。

6　ねらい

高速道路や鉄道などのつながりを地域の特色や地形と関連させて調べる活動を通して、県内の交通の広がりとその理由を考えることができる。

7　指導過程

段階	学習内容・活動	時間	○ 指導上の留意点　＊ ESD の視点に立った留意点 ・ 評価＜ESD で重視する能力・態度＞
導入	1　めあてをつかむ。 県マップにたりないものは ・ 道路　・ 駅　・ 鉄道 ◎ 高速道路を作ろう （る計画を立てよ）	5	○ 前時までの学習を表した県マップを用いて、調べてきたことを確認する。 **＊ 土地の様子、市町村名、特産物を確認することで、次の活動の視点につなげられるようにする。** **＜多様な観点と見通し＞**
展開	2　見通しをもつ。 ・ どこに作るのか ・ なぜ、そこを選ぶのか ・ 選んだ理由の妥当性は	5	○ 利便性や個人の利益のみではなく、公共交通の必要性という理由に目を向けられるようにする。 **＊ 予想される場所や理由の大筋を全体で確かめることで、個人での思考が難しい児童も見通しを持てるようにする。** **＜多様な観点と見通し＞** **＊ 見通しの共有により、他の視点からも考えようという意欲を高める。　＜多様な観点と見通し＞**
	3　調べる。（建設計画を立てる） (1) 自分の考えをワークシートに書く。 ・ 考えた場所とその理由 ・ 建設のための課題と解決法 (2) グループを作り、話し合う。 ・ 課題は何か ・ 解決法 ・ 検討と修正 ・ 建設計画の完成 (3) 建設計画を発表する。 ・ 考えた場所と理由の共有 ・ 解決法の妥当性 ・ 地域の特色との関連 (4) 実際の交通網を知る。	35	○ 話し合いの視点が明確になるよう、ワークシートの項目を精選する。 ○ 建設に向けて予想される課題を考えることにより、土地利用の様子や人々の思いに気づけるようにする。 **＊ 課題解決のために必要な情報を調べるための手段を確保し児童の要望に応えられるようにする。** **＜多様な観点と見通し＞** ○ 他のグループの活動を随時紹介し、意欲的に資料や情報の収集にあたれるようにする。 ○ 建設のために必要な材料や費用、期間、労力について気づけるよう、資料・情報を準備する。 ・ 自分の考えをワークシートに書き、友達と話したり調べたりする活動を通して、交通の広がりとその理由について考えることができたか。（発表・ワークシート） ＜多様な観点と見通し＞＜交流と協力＞ **＊ 実際の交通網を発表し、次時への学習内容へとつなげる。** **＜多様な観点と見通し＞**
	4　確かめる。 (1) 実際の交通網とグループの計画とを比較する。 (2) 交通の役割と人々のくらしについて、考える。	30	**＊ 実際の高速道路網と鉄道網と、自分たちの計画との相違点比較を通して、交通の役割や地域の特色との関連について考えられるようにする。** **＜多様な観点と見通し＞＜つながりの尊重＞** **＊ 利便性だけでなく、土地や家屋等の現状に着目し、将来的に環境を守っていく大切さにも気づけるようにする。** **＜多様な観点と見通し＞＜つながりの尊重＞**
終末	5　まとめをする。 ・ 高速道路の役割、地域の特産物、支える人々の思いについて、自分なりの考えを書く。	15	○ 数名に考えたことを発表させ、個の気づきを全体で共有できるようにする。 ・ 実際の交通網との比較を通して、交通の広がりとその理由について、考えを深めることができたか。（発表・ワークシート） ＜多様な観点と見通し＞＜つながりの尊重＞

（３）授業研究の様子（ＥＳＤの視点に立った能力や態度を育成するための手立てに沿って）

＜　導入段階「前時までの学習を県マップに表し、めあてをつかむ」＞

①　土地の様子、市町村名、特産物を確認することで、次の活動の視点につなげられるようにする。　＜多様な観点と見通し＞

復習を兼ねて既習内容を県マップに表すことで、「地図」として不足の項目である交通網に着目できるようにした。

○　土地の高低や、都市の人口、特産物を振り返ることで、県全体の様子や大きな都市の配置を視覚的にとらえなおすことができた。また、その後のめあてにつなげるための利便性にも気づくことができた。

●　高速道路の必要性について、利便性は押さえられたが、公共性という点に気づかせるための発問の工夫が必要だった。

＜　展開段階「高速道路を作る場所の見通しを持ち、計画を立てる」＞

①　予想される場所や理由の大筋を全体で確かめることで、個人での思考が難しい児童も見通しを持てるようにする。

②　見通しの共有により、他の視点からも考えようという意欲を高める。

＜多様な観点と見通し＞

○　早い段階で、意図的に指名した児童に発表させたことで、まだ考えつかなかった児童も、ワークシートに書き始めることができた。

○　自分が作ろうと思った理由として、「たくさんの人が利用できる」「山が多くて、移動が不便そう」等の公共性に関わる発言が出された。

●　思考および表現に時間がかかる児童は、やはり、ワークシートを仕上げるまでには至らなかった。

③　課題解決のために必要な情報を調べるための手段を確保し、児童の要望に応えられるようにする。　　＜多様な観点と見通し＞

自分たちの計画において、何が課題であるか、解決のために現状を知るには何を調べればよいのか。そのために、タブレットＰＣ、資料、地図帳等を準備し、各グループが選択して学習できるようにした。

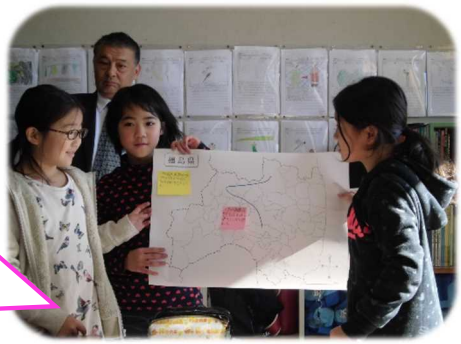
○　グループを自主的に作ることができたため、その後の話し合いや活動の意欲が持続された。

○　資料を調べる人、結果を付箋に書く人等、役割分担をしながら計画の作成にあたることができた。

●　ＰＣでの情報の検索や資料の読み取りに時間がかかり、課題解決まで至らないグループがあった。

○　「初めの計画だと、道路がとても長くて費用がかかるから、曲線を少なくした」「山を崩さないと作れないとわかったので、平らな部分も入れた」等、課題をどう解決して計画を改善したのかを発表することができた。

●　課題と解決法を色分けした付箋に書くようにしたが、書くことに時間がかかってしまった。



＜　終末段階（本時）「実際の交通網を知る」　＞

④　実際の交通網を発表し、次時への学習内容へとつなげる。

＜多様な観点と見通し＞

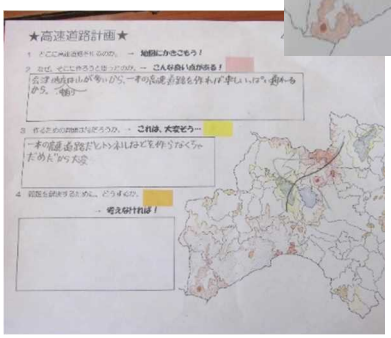
自分たちの計画との相違点から、交通の役割や地域の特色などとの関連について学習する次時への見通しを持たせた。

○「意外と道が短い」「本当は、そういう道路なんだ」というつぶやきが見られた。なぜ、そうなのかを考えようという次時への意欲を高めることができた。

＜　次時「グループの計画と実際を比較し、人々のくらしとの関連に気づく」＞

前時までの学習内容

本時でのワークシート

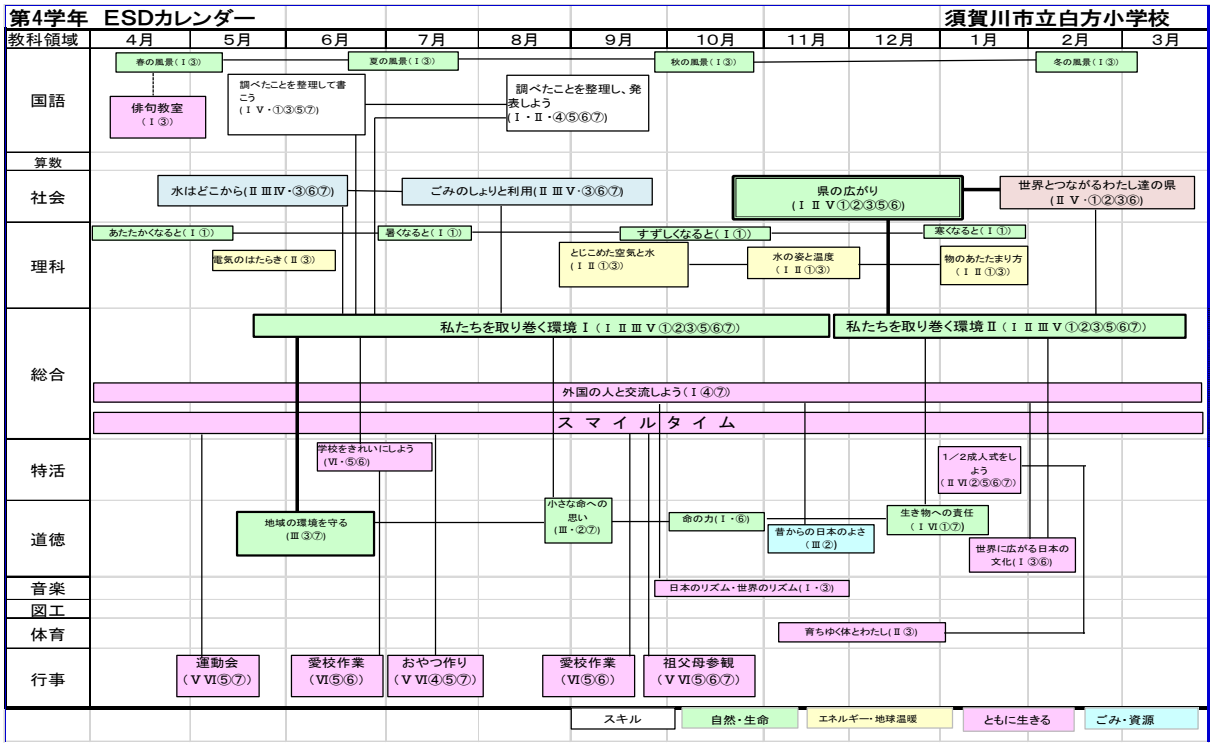


前時・本時での個の学びをもとに、グループごとに話し合い、見通しに対しての確かめを行った。

２時間扱いにしたことにより、話合いの時間が十分に確保された。

（４）今年度の実践の成果と課題

①今年度の実践を振り返って



４年生の総合的な学習のテーマ
「私たちを取り巻く環境（岩瀬から県へ）」

今年度の４年生の総合的な学習テーマは、社会科の学習内容との関連が非常に多い。そこで、年度当初から、社会科の授業と総合的な学習の授業でつながりを持たせた展開を行ってきた。

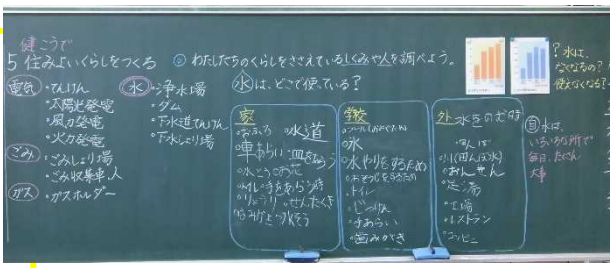
まず、社会科の学習における学び方を身に付けることをＥＳＤの第一歩目とした。

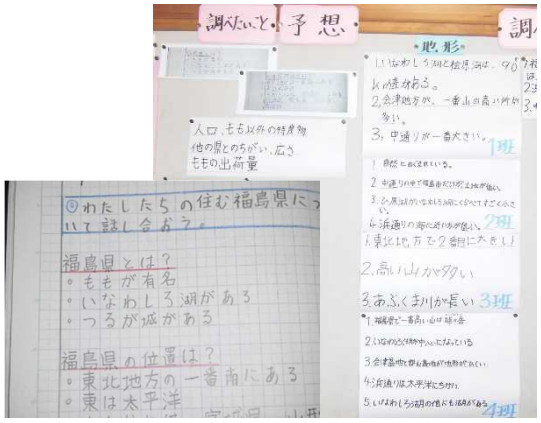
社会科　～学び方を身に付ける～

１．①　事象提示・資料等から現状を知る。
　　②　現状から、考えられることを挙げる。
　　③　学習課題を設定する。

２．④　学習課題およびその時間の疑問点についての予想を立てる。
　　⑤　予想に基づいて、調べ学習を進める。

３．⑥　調べた結果をまとめる。
　　⑦　結果をグループや全体で共有する。





１の段階では

○　事象についての気づき・興味関心が高まり、社会科に限らず他教科での意欲の向上につながった。また、各自が自分の気づきと学習課題との関連を意識しながら、学習を進めることができた。

●　一人一人の気づきから、全体での学習課題の設定までに時間がかかり、単元の導入段階で時数が多く必要になることがあった。

２の段階では

○　調べ学習を進める際に、自分の予想と比べることを常に意識することができた。そこから、さらに、「なぜ、予想と違ったのか」「実際の事象は、どのような理由からか」といった多面的な考え方が少しずつできるようになった。

●　必要な資料収集の能力に個人差が大きく、十分に調べ学習を進めることができない場面が見られた。

３の段階では

○　まとめたことをグループや全体で共有したことにより、個人でのまとめでは気づかなかったことも知識として習得することができた。

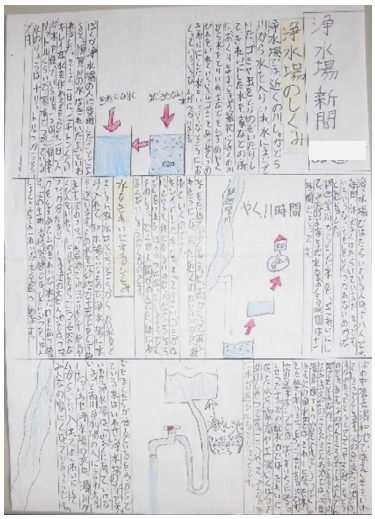
社会科・総合的な学習　～見学学習を通して、まとめる～

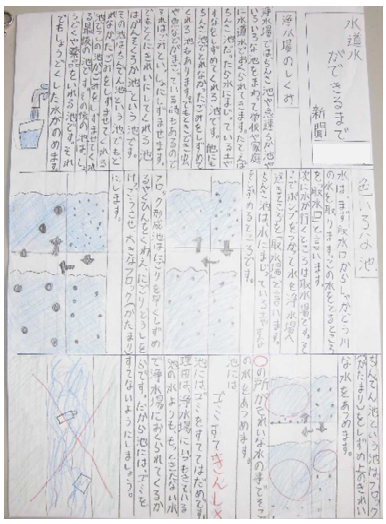
◇　浄水場・衛生センターの見学

○　総合的な学習で「環境」という視点を持たせたことにより、多面的に考え、質問する姿が見られた。

○　自分たちの未来、環境の未来についての質問も出され、担当の方に称賛をいただいた。

◇　子どもたちがまとめた新聞





② 白方小学校のＥＳＤの視点に立った学習指導で育む能力･態度について

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

○ 学習課題の設定、課題に対する予想の段階で、一人一人の気づきを大事に扱い、全体で共有した。そのことにより、自分だけでは思いつかなかったことや新たな視点を見つけ、見通しを持ちながら学びを深める姿勢が身についてきた。また、予想を立てるには、その理由が必要であるということや、今までの知識と結び付けて考えることが大切だという学びのつながりにも気づくことができた。

● 調べたい内容についての情報をどうすれば集められるのかという点で、大分時間が必要だった。十分な資料を集めること、検索の方法等の力の個人差への対応が難しく、解決に向けての活動が滞る場面が見られた。どの教科でも必要とされる力なので、高学年に向けて高めていきたい。

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

○ 全教科を通して、同じ考え同士であったり、あえて違う考え同士にしたりと、様々なグループ構成で学び合う活動を行ってきた。子どもたちは、誰と一緒になってもすぐに話合いを始め、意見をまとめ発表するところまで進めることができる力がついてきた。「一人で考えるよりも、いろいろな答えが出る」「友達と話し合うと、よくわかる」と、実感しながら活動している様子が見られた。

● なかなか意見がまとまらないときに、どう結論づけるか。その過程で、進行が止まってしまうことが何度かあった。その都度、論点を確かめながら交流できるよう助言してきた。今後は、自分たちで話し合いを修正したり、解決したりという方法を身につけることができるようにしていきたい。

＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞

○ 社会科での見学学習、総合的な学習での調べ学習、どちらも「環境」という視点が大きく関わっていたことが、思考の深まりを促した。子どもたちからは、「社会科で水の学習をしたときには」や「衛生センターでの工夫は」などの言葉が多く、既習の内容と関連させてつながりを考える姿が見られた。特に、自然や社会とのつながりに気づき、その大切さを考えることができた。

● 自然や社会とのつながりに比べると、環境を守るための工夫や努力などを担う「人」のつながりについて、やや理解が難しかった。今後さらに、人々の努力や協力について実感できるような手だてが必要である。その際に、自分に立ち返って、比較して考えることが特に重要である。

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的･計画的に取り組む態度＞

○ ４年生になり、委員会という学校全体に関わる活動が始まった。大変意欲的に取り組み、責任感や使命感が育っている。各委員会で学校のための仕事を分担しているが、５・６年生が不在でも活動を進める姿が見られるようになった。学級での係活動にも、委員会活動のよい影響が見られている。身近な学級･学校という場をどう良くしていくかという意識を持ち、活動できたことは、大変望ましい。

● 決められた活動においては、望ましい態度を身につけることができてきた。しかし、係や委員会などの活動を離れたところで意識していることは、少なかったように感じる。例えば、学級での日常で、友達同士の関係で、自分自身の向上の面で、「よりよく」「主体的に」取り組める場面は多々あるが、残念ながら行動には結びついていない。これから、自分の生きる力とともに、多くの人と生きる力を高めるために、身近なところに目を向けながら行動する意識が重要であると考える。